



BSR 通信

BSR 推進室ニューズレター第 14 号

平成 27 年 5 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079（直通）

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

応用仏教学の可能性

大正大学仏教学部仏教学科

教授 野口圭也

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：研究ノート
- 3 頁：さざえ堂だより
- 4 頁：BSR 図書室・今後の予定

大正大学大学院仏教学研究科では、本年度から新たに「M 応用仏教学特論」という授業を開講している。筆者が担当しているのは、春学期開講の「M 応用仏教学特論 A」であり、仏教学・梵文学に所属する修士課程の学生を対象とする科目である。

宗学の各研究室においても、同様に修士課程の授業として、「M 応用天台学特論 A・B」「M 応用真言学特論 A・B（智山）C・D（豊山）」「M 応用浄土学特論 A・B」を開講している。

大学院における実践系の科目は、昨年度までは、「仏教実践学特論 A・B」二科目のみの開講であったが、各研究室の特徴を活かし、それぞれ

の状況と要請に合致した内容で授業を行えるよう、本年度より開講科目数を大幅に増やしたものである。

従来の大学院の授業は、学部における学習を踏まえて、厳密な文献研究に基づいてより高度な教学の研究を積み、自らの研究成果を発表して、周知の通りこれまで多大な貢献を果たしてきた。

しかし社会の変化と要請により、伝統的な文献学による教育と研究に止まらず、仏教学および各宗学を多角的な視点から学び、それを社会の中で直接的かつ実際に活用していくことを目指して、これらの科目群を設置したのである。しかし、基礎あつての応用であることは言うまでもない。

学生諸君はまず、教学の十分な学習に裏付けられた、仏教および各宗学の深い知識と正しい理解を身に付けることが必要である。それを基礎として、具体的な諸課題に対して自ら思索し、発言し、行動することが望まれる。

「応用仏教学」という分野自体が、未だ内容を確定するに至っていないが、逆に様々な可能性を内包しているということもできる。

新たに開講したばかりで、まだ手探りのところもあるが、担当される各先生は、それぞれ工夫を凝らして授業内容を構成して頂いている。

担当者の一人として、今後の展開に大いに期待しているところである。

研究ノート

BSR 概念再考

—「多死社会における BSR」—

これまでの傾向

BSR 通信が創刊されてから 1 年が経過しました。BSR 推進室では、「BSR (= 仏教者の社会的責任)」概念を整理し、構築するという目標のもと研究ノートを掲載してきましたが、これまでの歩みをふりかえると、ある一定の傾向が浮き彫りになります。

たとえば、臨床仏教師講座や臨床宗教師講座など社会と積極的にかかわる僧侶・宗教者の養成課程を追ったり、自死問題に取り組む僧侶の会を中心に現代社会の問題に取り組む僧侶の活動を取りあげたりと、積極的に「外界」とかかわる仏教者の姿勢を本紙面では扱ってきました。

SR から BSR を問い直す

しかしながら、BSR の基本的な概念に立ち返ればこれらはあくまでも BSR の要件の一部にしか過ぎません。

本ニューズレター創刊号（2014 年 4 月）の研究ノートで、私たちは SR 概念について国際規格 ISO 26000 をもとに、以下のように提示しました（ISO/SR 国内委員会/一般財団法人日本規格協会編「やさしい社会的責任 解説編」参照）。

- ① 《説明責任》
組織の活動によって外部に与える影響を説明する。
- ② 《透明性》
組織の意思決定や活動の透明性を保つ。

- ③ 《倫理的な行動》
公平性や誠実であることなど倫理観に基づいて行動する。
- ④ 《ステークホルダーの利害の尊重》
様々なステークホルダーへ配慮して対応する。
- ⑤ 《法の支配の尊重》
各国の法令を尊重し順守する。
- ⑥ 《国際行動規範の尊重》
法律だけでなく、国際的に通用している規範を尊重する。
- ⑦ 《人権の尊重》
重要かつ普遍的である人権を尊重する。

これら 7 つの要件を鑑みれば、「社会的責任」とは、社会貢献を内包しつつも、より包括的な概念として理解されるべきでしょう。すなわち、「外界」とかかわろうという姿勢だけでなく、自身の足元を見つめ直し、適切な宗教活動、寺院運営がなされているかを顧みること重要であるということです。

こころみに、前述の SR の構成概念

を仏教者のばあいに置き換えてみると以下の表のようにあらわすことができるのではないのでしょうか（『仏教者の社会的責任』の構成概念参照）。

このような BSR 概念を措定すると、私たちがこれまで本紙面で扱ってきた内容があまりに外向きのもの中心だったことに気付かされます。

もちろん、外向きの活動はメディアにも注目されやすく、情報が入りやすいからだともいえます。しかしながら、先ほど提示した BSR 概念に合致したものであれば、寺院や地域で行われてきた地道な活動も同様に取り上げるべきでしょう。また、仏教者がこれまで主たる活動として行ってきた儀礼や法要もこの枠組みで見直される必要があるでしょう。

現代日本と仏教者

現在、多くの先進国では、高齢者（65 歳以上）の人口比率が年々増加しています。

この比率の段階によって、「高齢化社会」（総人口の 7~14%が 65 歳

「仏教者の社会的責任」の構成概念

- ① 《説明責任》
仏事（法要・葬儀）を含めた諸活動の意義を伝える。
- ② 《透明性》
開かれた僧侶、開かれた寺院経営を目指す。
- ③ 《倫理的な行動》
五戒・十善戒にもとづいた行動をする。
- ④ 《ステークホルダーの利害の尊重》
檀信徒や地域住民への配慮を怠らない。
- ⑤ 《法の支配の尊重》
日本の法令を尊重し遵守する。
- ⑥ 《国際行動規範の尊重》
他国の仏教者の教えや活動に学ぶ。
- ⑦ 《人権の尊重》
誰に対しても思いやりと慈しみの心を忘れない。

以上)、「高齢社会」(14~21%)、「超高齢社会」(21%以上)と分類されますが、日本では 2007 年に 21.5%を超えてから、「超高齢社会」へと突入しました。このスピードはさらに加速し、現在では総人口の 4 人に 1 人が高齢者であるという状況です。

この「超高齢社会」の先にあるものは何でしょうか。寿命が延びたからといって、私たちは永遠に生き続けられるわけではありません。その先には、必ず命終の時が待ち受けています。

NHK では「多死社会」の特集が組まれ、2030 年には、年間死者数が現在から 30%増加し、160 万人になるとも紹介されています。

これまで当たり前のように葬送にかかわってきた仏教者ですが、「送られる人」が圧倒的に増加する社会で、従前通りのかかわりが得られるかどうかは明らかではありません。

むしろ、そのとき必要とされるかどうかは、「今」にかかっているといえるのではないのでしょうか。

伝統的領域における BSR

そこで、BSR 推進室では、BSR 構成概念と射程、および現代日本がこれから直面する問題をあわせて、「多死社会における仏教者の社会的責任」と題した研究に着手することにいたしました。

この研究の目的は、寺院や僧侶といった伝統的な宗教資源が多死社会を迎える日本においてどのような役割を果たしうるかを明らかにすることです。

この研究を通じて、これまで「社会貢献」とはみなされてこなかった仏教者の諸活動に焦点をあて、それらが社会的にどのような意義をもつかを分析することで、宗教資源の潜在的効果を可視化させたいと考えています。

仏教者の活動を葬送儀礼という「点」だけでとらえるのではなく、生前の交流、遺族へのグリーフケアといった「線」で把握する。さらには仏教者同士の連携、地域社会との連携をも含めた「面」への広がりを描き出すといったことが研究の当面の目標といえましょう。

現在、事例収集、アンケート調査などを計画しておりますが、収集されたデータは前述の BSR 概念も援用し、より具体的な形で分析を行いたいと考えています。

また、この研究は、日本学術振興会・科学研究費助成金事業(挑戦的萌芽研究)に採択され、3 年間の研究プロジェクトとして行われます。長期にわたる研究となりますが、本ニューズレター上でも、経過報告を逐次行いたいと考えております。

BSR 推進室の新たな取り組みに、どうぞご期待ください。(T)

さざえ堂だより — 学生ボランティア募集 —

大正大学の 90 周年記念事業の一環として建立されたすがも鴨台観音堂。通称「鴨台さざえ堂」の名で親しまれ、毎日多くの方がお見えになります。もはや、西巣鴨の新名所といってもよいでしょう。

そんな参拝客をおもてなしするのが、「お堂番」と呼ばれるボランティアの方々です。昨年からは学生にもお堂番をおつとめいただき、地域と大学との接点がよりいっそう広がりました。お堂番を経験した学生さんからも「お堂番をやってよかった」「大正大学ならではのボランティア」との声をいただいております(詳細は BSR 通信第 11 号をご覧ください)。

新年度が始まり、仏教青年会を中心に新たな学生お堂番ボランティアメンバーを迎えましたが、まだまだ仲間を募集中です。大学で行える地域貢献として皆さんもぜひお堂番ボランティアをやってみませんか？

興味関心がある方は、3 号館 1 階 BSR 推進室(鴨台プロジェクトセンター横)までお気軽にお越しください。きっとこの経験は学生生活の財産となるはず。皆さんのご参加お待ちしております！(T)



◁ さざえ堂にいらっしや
った参拝客をご案内

▷ 学生お堂番ボランティア
の菊池萌花さん(左)と
石山正樹くん(右)



BSR 図書室

櫻井義秀著『「カルト」を問い直す』

(中央公論新社、2006 年、780 円+税)

1995 年 3 月 20 日、朝の通勤ラッシュで込み合う地下鉄の構内で事件は発生しました。「地下鉄サリン事件」と呼ばれるこの事件は、死者 13 人、負傷者約 6,300 人という被害をもたらしました。そして、その犯人がオウム真理教（現・アレフ）という宗教団体であったことから、宗教テロとして世間を震撼させました。

宗教的価値は時として世俗の価値観と衝突することがあります。両者が対立するとき、宗教団体はどのような態度を示すのでしょうか。カルトと呼ばれる集団は、社会に背を向け、時として暴力的な行為をも肯定します。

本書は、北海道大学で教鞭をとる宗教社会学者が、キャンパス内にはびこるカルトの学生勧誘を危惧し、その予防のために書いたものです。したがって、オウム真理教をはじめとして、すでに問題を起こしている宗教団体の名前もでてきますが、大事なのはそれらの名前を覚えることではありません。カルトが行う勧誘方法やマインド・コントロール



の方法にこそ注目すべきです。なぜなら、カルトへの勧誘は宗教団体の名前を明示することなく、サークル勧誘のようなかたちをとり、学生に接触をこころみるからです。

宗教は人の心に安らぎと豊かさを与えるものですが、残念ながらそこにつけ込み、財産や人間関係を奪ってしまうカルトが存在することも事実です。「個人の自由」の度を越えた問題にも発展しかねません。大学での相談窓口の周知なども必要ですが、著者はまずは教養を高め、問題に対する予備知識や対応法を事前に学習することが肝要であるといいます。本書は、学生のみならず大学教職員にも必読の一冊といえるでしょう。(T)

今後の予定

5 月 16 日 (土)	11 時～12 時	すがも鴨台花まつり	鴨台観音堂前
			※五宗派学生が合同で勤めます
	9 時～13 時	あさ市・地方自治体「物産市場」	けやき広場 他
	10 時～16 時	ご当地グルメコーナー	南門 通路
	12 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	5 号館 1 階
		※その他イベント盛りだくさんです！	
6 月 20 日 (土)	11 時～12 時	花会式 (真言宗豊山派)	鴨台観音堂前
	9 時～12 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ僧話花	5 号館 1 階

